

(様式 1 : 参考人による事前意見書)

資源管理手法検討部会に係る参考人による事前意見書

1. 対象となる水産資源

マダラ本州太平洋北部系群

2. 参考人

氏 名	志田 恵洋
所 属 又 は 職 業 等	岩手県沿岸漁船漁業組合

3. 御意見等

(1) 全体に関する御意見（本資源全般に係る御意見があれば、御記載ください。）

マダラ本州太平洋北部系群は青森県沖から茨城県沖にかけて広く分布し、沿岸漁業及び水産加工業者にとって非常に重要な水産資源であり、沿岸地域経済への影響は非常に大きいものである。特にマダラの集積地となっている宮古港には岩手県内の7～9割の水揚げが集まっており、宮古港のマダラ水揚量は2010年から6年連続日本一！残念ながら2016年に釧路港に日本一の座を渡したものの、その後も本州一の水揚量を誇り、「宮古の真鱈」は、洋上で施氷箱詰めされてから水揚げされるため、刺身でも食べられる鮮度の良さが最大の自慢として、毎年「宮古の真鱈まつり」等開催して地域経済の発展に大いに貢献している。

しかしながら、東日本大震災の被災により漁獲圧が減少し、一時的に増加したと思料されるマダラ資源は、2013年以降、水揚量は減少傾向にあり、近年はピーク時の約2割の水揚量と資源の減少を大変危惧している。

(2) 各論に関する御意見（各項目に係る御意見があれば、御記載ください。）

① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認

岩手県では県内に水揚げされる水産物については岩手県水産技術センターの「いわて大漁ナビ」により統計情報が速やかに入手出来、過去の漁獲状況等と比較検討できるが、他道県の漁獲状況については集計方法、情報提供方法がバラバラであるため、太平洋北部海域の漁獲量の把握に非常に難儀しているところである。

今後、資源管理を検討していく上では海域別、漁業種類別の漁獲量の把握が非常に重要であることから、漁獲量等統計情報のスムーズな入手方法の確立を期待する。

② 資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項

資源評価結果に基づき最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量の算出については評価するが、現場の漁業者としては、如何にすれば持続的・安定的に高い水準での漁獲の維持が出来るか求めるものである。

そのための手法としては、TACによる総漁獲量でのコントロールのみならず、産卵親魚の保護、仔稚魚の保護、小型魚の保護、産卵場の環境保全・保護・造成など資源管理目標の達成のための手法検討が必要かと思料する。

③ 検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項

令和2年9月に国が公表した「新たな資源管理について」では、資源管理の手法として、インプットコントロール(操業隻数、トン数、操業期間、馬力数など)、テクニカルコントロール(漁具制限、サイズ制限、地域制限、漁期制限など)、アウトプットコントロールを掲げているが、漁獲シナリオ(漁獲圧力の決定方式)の選択においては、現場の声をよく聞いたうえで、インプットコントロール、テクニカルコントロールの吟味、検討のうえ、適切な漁獲シナリオの選択が必要かと思料する。

④ 数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向

底びき網など非常に漁獲効率が高く、小型魚から産卵親魚まで無差別に根こそぎ漁獲する漁業と選択的に大型魚を漁獲する底はえ縄漁業を同列で数量管理のテーブルに載せることには異議がある。

近年は親魚が減少しているにもかかわらず漁船隻数は減少している漁業種類もあるが、漁獲量の多い漁業種類では依然と同じレベルのものもあり、獲り過ぎとなっているのではないかと危惧している。

資源管理において数量管理の導入だけでなく、本来あるべき産卵親魚の保護、仔稚魚の保護、小型魚の保護、産卵場の環境保全・保護・造成や漁獲圧のコントロールの方法など資源回復のための積極的な管理の在り方を検討し施策として実施すべきである。

⑤ 数量管理以外の資源管理措置の内容(体長制限、禁漁期間等)

「新たな資源管理について」で示してあるインプットコントロール、テクニカルコントロールの適切な導入とともに産卵親魚の保護、仔稚魚の保護、小型魚の保護、産卵場の環境保全・保護・造成などが必要かと思料する。

その場合は体長制限、禁漁期間等の設定もありうるものかと思料するが、底びき網漁業等網漁具による漁業とはえなわ釣漁業等釣漁具による漁業を一律に扱うのではなく、漁業種類ごとのきめ細やかな資源管理措置の導入が必要かと思料する。

⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討

マダラ本州太平洋北部系群の生息地域及び産卵場である八戸、仙台地域。

マダラを漁獲利用している沖合底引き網漁業、定置網漁業、底はえ縄漁業、底刺網漁業者、魚市場関係者、水産加工業者、飲食店等地域サービス業関係者など

⑦ ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項

現在、資源管理の施策としてTACによる漁獲量制限をとっているが、本来は産卵親魚の保護、仔稚魚の保護、小型魚の保護、産卵場の環境保全・保護・造成など資源回復のための積極的な管理の在り方を検討し施策として実施すべきではないかと思料する。

⑧ 管理対象とする範囲(大臣管理区分、都道府県とその漁業種類)

マダラ本州太平洋北部系群を漁獲利用する全漁業種類

(3) その他（御質問等があれば、御記載ください。）

本県の小型船は主に底延縄、底刺網漁業で漁獲しており、2013年の約3千トンを一様に減少傾向である。岩手県資源管理協議会資料によると2019年、2020年は1歳魚の出現はほとんど見られなかったとのことであり、今後、漁獲量の減少が危惧される。

当該資源は底びき網漁業による漁獲が大きい、各漁業種で小型魚保護の対策が必要である。

マダラの資源変動要因は複雑であるようだが、TACによる資源管理が導入されたとしても各地先の資源状況、漁獲状況を調査し、TAC枠の臨機応変な対応を期待するとともに、産卵親魚の保護、仔稚魚の保護、小型魚の保護、産卵場の環境保全・保護・造成などや漁業種類ごとのきめ細やかな資源管理措置の導入など資源回復のための積極的な管理の在り方を検討し適切な施策を期待する。

(様式 1 : 参考人による事前意見書)

資源管理手法検討部会に係る参考人による事前意見書

1. 対象となる水産資源

マダラ本州太平洋北部系群

2. 参考人

氏 名	富岡 啓二
所属又は職業等	一般社団法人全国底曳網漁業連合会 会長理事

3. 御意見等

(1) 全体に関する御意見（本資源全般に係る御意見があれば、御記載ください。）

沖合底びき網漁業では狙った漁獲は限定的であり、多くの場合混獲となることから、数量管理となった場合、混獲による数量超過を避けるため、操業そのものを控えざるを得ない等支障が出ること、さらに、当該資源を漁獲する福島県は東日本大震災による被災から通常操業へ戻る復興途上であり、数量管理の導入によって復興が妨げられることを強く懸念。

このため、まずは混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示すると共に、当該資源を数量管理することの必然性について関係漁業者の理解を得た上で検討を進めることが重要かつ不可欠。

また、資源管理の推進に当たっては当該資源を利用する漁業関係者は等しく取り組むことが必要。

当該資源について沖合底びき網漁業における操業をみると、沖合底びき網漁業での漁獲割合は 49.8%程度(小型底びき網 3.6%, 刺し網 8.7%、はえ縄 15.4%、定置 12.6%、その他 9.9%)だが、漁場に広範にわたって分布するため大小混じりで混獲（それぞれの地区を基地とする沖合底びき網の総漁獲量の 0.5～19%、水揚げ金額の 0.3～12%程度）として採捕されている実態。

また、当該資源の近年の漁獲量は 8,500 トン程度、我が国の総漁獲量の 0.4%程度と極めて小さく、国として数量管理を行う必然性について疑念。

(2) 各論に関する御意見（各項目に係る御意見があれば、御記載ください。）

① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認

自由漁業による漁獲や市場外流通も見受けられるため、そういった数量を把握する体制が出来ているか疑念。

② 資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項

--

③ 検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項

--

④ 数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向

上記（１）のとおり。加えて、仮に数量管理を実施する場合、震災前後で漁獲実績が大きく異なっている中で配分の考え方についても検討する必要。

⑤ 数量管理以外の資源管理措置の内容（体長制限、禁漁期間等）

沖合底びき網漁業においては７月～８月が禁漁となっている。

⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討

青森県（太平洋）から千葉県における沖合底びき網漁業者は勿論のこと、当該資源は太平洋北部の沿岸漁業において多く利用されている資源であることから関係する漁業者、所属漁協、市場、流通関係者。

⑦ ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項

上記（１）の課題を整理し漁業者の理解を得た上でステークホルダー会合を開催すべきでは。

⑧ 管理対象とする範囲（大臣管理区分、都道府県とその漁業種類）

自由漁業も含め資源を利用している漁業者間に不公平感が生じないようにすること。

（３）その他（御質問等があれば、御記載ください。）

マダラの流通を踏まえれば、仮に数量管理を実施するのであれば管理開始の時期は一律で行うべきと思慮。